



令和6年度 第2号（通算354号）
一佐西学校だより
令和6年5月27日発行
〔発行責任者〕
長崎県立佐世保西高等学校長 濱野 正義

最後の時に勝負強くあるために…

教頭 祝 利久

新入生を迎えてから2か月ほどが経ち、季節は初夏となりました。運動部はもとより、文化部にとっても3年生と一緒に積み上げてきた活動の集大成となる節目の時期を迎えますね。「勉強だけだと、思うなよ。」のコピーが印象的な佐世保西高生の本領発揮に期待します。

さて先日、本校体育館で講演会があった際、終了後の片づけ作業を率先して行っている人たちが目にとまりました。尋ねてみると、ある部活動の部員たちのこと。フロアの片づけからギャラリーの暗幕開けまで手際よくこなし、館内に一礼して退出していました。指示待ちではない自律的な作業ぶり、自然と身に備わった一連の所作を清々しい気持ちで眺めたことです。きっと、部活動における高い目標と質のある練習にもつながっているのではないかでしょうか。

高総体を前に、私がこれまで出会った運動部顧問の先生方（生徒を「日本一」に導かれた方々）の言葉を紹介します。

◆『練習は根性、試合は勇気。』 積み重ねが求められる練習は粘り強い根性が大事。しかし、対戦相手を前に一度きりの本番（試合）で必要なのは勇気だということです。本番には緊張や不安、プレッシャーがつきもの。それでも心折れることなく勇気を鼓舞し、自身の勇気が起点となって最良のパフォーマンスを発揮できるかどうかがカギですね。その勇気を裏付けるのはもちろん、これまでの練習の蓄積なのだと思います。

◆『下手は下手で終わることはない。』 選手個々がもつ長所、育つスピードはそれぞれに違います。一歩一歩進む選手、一度に五歩十歩進む選手など様々。しかし、一歩進んでいるはずの自分を十歩進んでいる選手と比べて「自分はダメだ」と挫折することがあります。大切なのは、人それぞれ進むスピードは違っても自分は確実に前に進んでいる（下手のまでは終わらない）と信じされること。自分と他者の何かを比べてもしょうがない。自分には「一長一短」あるが、その「一長」を強みとして伸ばし、「一短」は足を引っ張らないところまで修正する。自己肯定感を失わないことがトータルの成長につながります。

◆『負けから学ぶ。やり遂げる力はここから。』 十分な計画と周到な準備のもとに挑む試合でも、本番で何が起きるかは分かりません。選手一人ひとりのコンディションもそう。よって、強いから常に勝つのではなく、負けることもあるわけです。そして、多くはそこから再出発です。負けると課題が多く見つかる。勝つと、あるはずの課題が隠れて見えなくなる。負ることでそれらが浮き出てくる…と多くの先生方が言われます。その時、「なぜ」を考えて学ぶ習慣のある人、「次の行動への改善点」を自分で見出せる人が「失敗を乗り越え最後までやり遂げる力」を身につけるのだと言います。

部活動は、自分で選択した分野・種目に身を置くところから始まります。そして、今がそうであるように、高校生活における「最後の時」が必ずやって来ます。目標を決め、計画を立て、一所懸命に取り組み、結果（勝敗）がもたらされる経験。よき友やライバル、師との出会い（それは目に見える範囲を越えた所でも）。その中で自他の違いを認識したり、自己の一長一短を見つめたりします。様々な体験をするところに意味があり、高校時代の思い出の大部分を占める濃厚なものですね。

とはいえ、皆さんの高校生活には進路実現に関わる「最後の時」が待ち受けていることも確かです。自分で選択する道です。個性や価値観の多様性にスポットが当たる時代ですが、挑戦する心、自ら決めた目標を長期的に達成する力（失敗にめげずやり抜く力）が再評価されています。「最後の時」に勝負強くあるために、この時期の濃厚な体験を満喫してください。

第61回入学式・新任式・始業式

4月8日（月）の午後、本校体育館において第61回生の入学式を行いました。入学式では2・3年生代表生徒、保護者の皆様と職員一同で新1年生217名を盛大に迎えました。春の訪れを告げる満開の桜や新入生の爽やかな雰囲気が感じられる中で、厳粛にして盛大な式となりました。晴れて西高生となった第61回生のみなさん、これからは「真の西高生」を目指し、仲間とともに協力し助け合い、3年間を過ごしていきましょう。皆さんの活躍を大いに期待しています。

また、同日の午前中には新任式と始業式を行いました。新しく着任された先生方、そして新1年生を迎えるとともに、在校生も新学年となり、令和6年度の佐世保西高がスタートしました。

【教務主任 渕上】



新入生研修

4月10日（水）～11日（木）の日程で新入生研修を行いました。西高生としてふさわしい生活態度や礼儀作法、学ぶ姿勢の習得を目指して学年みんなで取り組みました。集団行動や校歌指導では、西高生としての自覚と団結力を高め、分掌や教科のオリエンテーション、講話では、西高生としてやるべきことを学びました。また、今年度は、昨年までコロナウイルス感染拡大防止のために実施できていなかった校歌コンクールを5年ぶりに実施し、クラスそして61回生の仲間との交流を深めました。日を追うごとに動作が機敏になり、挨拶の声も大きくなる姿を見て研修での成長を感じました。この機会をきっかけにして、日々成長を続けてほしいと思います。

【1学年主任 小佐々】

【講話の様子】



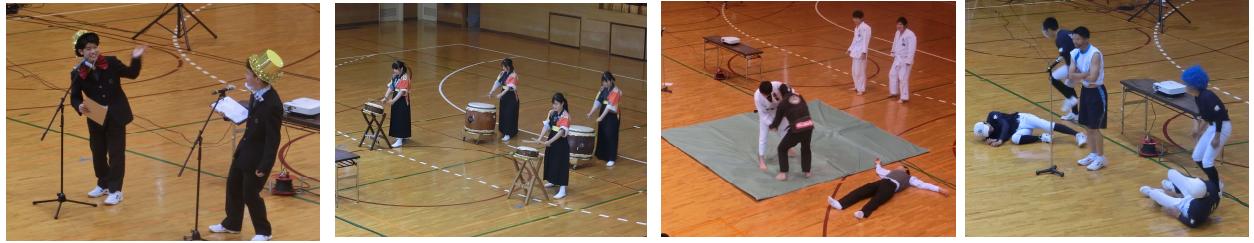
【校歌コンクール】 優勝 6組 第2位 4組



新入生部活動紹介(SAKURAフェス)

4月2日(火)新入生に向けた部活動紹介「SAKURAフェス」を開催しました。合唱・西高太鼓・吹奏楽部による歓迎演奏の後、生徒会会长・副会長の楽しいコンビのMCで、各部の代表者が1分間ずつ部の紹介を行いました。限られた時間の中で、コントを取り入れたり、動画や演奏等工夫を凝らし、それぞれの思いを表現しました。部活動はコミュニケーション能力を高めるとともに、心身のリフレッシュにも効果的です。1年生のみなさん、嬉しいことや悔しいこと、たくさんのこと経験し、大きな成長につなげてほしいと思います。

【生徒会担当 濱村】



歓迎遠足

4月26日(金)弓張岳展望台において歓迎遠足を実施しました。頂上展望台では、新入生・新転任の先生方との対面式や生徒会企画のお菓子争奪レクレーションを行い、1年生はボール渡し、2・3年生はジェスチャーゲームで大いに盛り上がりました。降雨のため早めの下山となりましたが、歓迎遠足を通して心身をリフレッシュし、クラスでの親睦を深められる良い機会になりました。

【生徒会担当 中島】



部活動等結果報告

<サッカー部> 令和6年度 県北高校サッカー春季選手権大会 優勝
 <女子バドミントン部> 第28回ヨネックス杯佐世保地区高等学校バドミントン選手権大会(団体戦)準優勝
 <女子ソフトテニス部> 令和6年度佐世保地区高等学校ソフトテニス春季選手権大会
 第3位 山口姫奈・末永七海ペア、山根瑚夏・山口夢夏ペア
 <弓道部> 第62回(令和6年度)県北高等学校弓道大会
 女子団体 第3位・第4位 男子個人 優勝 開琥太郎
 <柔道部> 第8回読売新聞西日本柔道大会 高校団体の部 第3位
 <書道部> 第58回長崎書道会展 漢字の部 優秀作 塚本初音
 <体操競技> 令和6年度長崎県高等学校体操競技選手権大会 第3位 武田かのか 国体出場決定
 <ソフトボール部> 令和6年度ジュニアスポーツ推進事業強化指定

《6月の行事予定》

1~4	土~火	高総体	11	火	地区別学校説明会(本校)
5	水	高総体代休(6/2分)	13	木	前期中間考査時間割発表 地区別学校説明会(西部・中央)
6	木	高総体報告会、進路講演会(3年)	17	月	地区別学校説明会(北部・南部)
7	金	放課後補習開始(3年)	20	木	前期中間考査(~25日)
8	土	GTEC(1・2年) 対外マーク模試(3年、~9日)	22	日	第1回英検二次
10	月	生徒会挨拶運動(~14日)	25	火	全国大会等壮行式

令和6年度入試(58回生)の結果

国立大学

名称	現役	既卒	計
茨城大	1		1
金沢大	1		1
信州大	1		1
滋賀大	1		1
大阪大	1	1	2
大阪教育大	1		1
島根大	2		2
岡山大	4		4
広島大	3	1	4
山口大	6		6
高知大	2		2
九州大	4		4
九州工大	1		1
福岡教育大	1		1
佐賀大	10	1	11
長崎大	12		12
熊本大	8	1	9
大分大	1		1
宮崎大	3	1	4
鹿児島大	5		5
鹿屋体育大	1		1
琉球大	5		5
計	74	5	79

私立大学

名称	現役	計
活水女子大	5	5
長崎純心大	5	5
長崎総合科学大	3	3
長崎国際大	15	15
長崎外大	2	2
西南学院大	2	2
福岡大	20	20
中央大	1	1
同志社大	1	1
帝京大	1	1
関西大	1	1
近畿大	5	5
中村学園大	3	3
その他私立大	109	109
合計	173	173



名称	現役	計
大分芸文短大	1	1
中村学園大短大	1	1
福岡工大短大	1	1
佐賀女子短大	1	1
合計	4	4

各種専門等

名称	現役	計
防衛大学校	1	1
海上保安大学校	1	1
九州職能大学校	2	2
嬉野医療附看護	5	5
佐世保市立看護	11	11
武雄看護リハ	2	2
その他	17	17
合計	39	39

就職

名称	現役	計
自衛隊一般曹候	1	1
一般企業	2	2
合計	3	3



令和6年度入試では、共通テストの平均点が昨年度よりも上がり、コロナ禍の緩和も影響して、国公立大学を志望する受験生が全国的に増加しました。

それらの影響から倍率の高まりも見られましたが、58回生は一人ひとりが進路目標の実現への意思を強く持ち、教員との連携を密にしながら、多くの生徒が自分の希望進路を達成してきました。

59回生が挑む令和7年度入試からは、教育課程の改定にともない共通テストも大きく変化します。新科目「情報」の追加、数学・国語・地歴における出題内容の拡大等、受験生にとって負担が増加することが予想されます。これまでの卒業生同様、進路達成への意思を強く持ち、必要な情報を適宜入手しながら新たな入試へ立ち向かってほしいと思います。

【キャリア支援部主任 植島】